

配置も検討します。

## II 健康づくり

7. コロナ禍で外出のきっかけが少なくなる中、健康でありつづけるためにフレイル予防講座の充実やフレイルチェックの普及を目指します。
8. 健康チェックセットの機器（骨密度や足指力計など）購入、専用カーの導入を検討します。
9. 認知症予防活動の充実（脳いきいきクラブ交流会、サポーター養成講座など）に取り組みます。
10. 日常的な健康づくりを目的とした「ヘルスアップチャレンジ」の普及に昨年以上に取り組みます。
11. 組合員から大腸がんを出さないを合言葉に「大腸がんチェック」の普及を昨年度以上に取り組みます。
12. 「組合員健診」の宣伝強化をさらに強め、受診向上に取り組みます。また、受療権を大切にお金がなくとも受診できる無料低額診療事業の宣伝も行います。

## III 組織づくりと職員との協力

13. 支部活動の活性化のために、ほくら・うはら支部リニューアルプロジェクトを中心に支部分割を進めます。
14. 支部運営の強化のために支部三役（支部長、副支部長、会計、事務局長の配置など）を確立し、分担して活動が進められる体制を作ります。
15. 活動のあり方改革として、支部活動や班会は運営委員が主に！事務局はサポート係へ。自主的に活動できる体制づくりをすすめます。
16. 活動を広げるために広報宣伝方法の改善（SNS「LINE」の活用や健康ニュースの紙面改善、活動紹介の充実など）に取り組みます。
17. 組合員の実質的な減少への対応として、名簿プロジェクトを中心に組合員名簿の整備や規約改定の議論を進めると同時に、転居先不明の組合員掘り起こし作戦を進めます。70周年を目指して、加入形態の変更や組合員名簿システムの改善をめざします。
18. 組合員のみならず職員への活動紹介学習の強化や共同組織との交流の場を増やします。
19. コロナ禍において東神戸病院をはじめ医療機関や介護施設が生活に必要不可欠であることが再確認されました。そんな病院や事業所など共和会の経営面を支える大きな運動のなかで増資活動に取り組みます。
20. 共和会の事業所を「地域の財産」として支え、病院リニューアルの実現も含めて組合員の声を集め、夢のある互助組合活動の場づくりと構想づくりを共につくります。

## IV 社保平和、まちづくり運動

21. 政府や一部野党をもふくめて、改憲論議の声が高まってきています。憲法改悪を許さない取り組みを強化します。
22. コロナ禍で課題が明確になった社会保障の立て直しと合わせて、保健所統廃合や病院統廃合問題に取り組みます。また、受療権、健康権、生存権の大切さと、コロナ禍でさらに広がった格差問題の解決するため「いのち署名」等に取り組みます。
23. まちづくりの視点で、地域の要求や相談を聞く活動に取り組み、自治体への働きかけを行います。また、要求毎の運動だけでなく互助組合が民主団体や自治体運動のセンター機能を果たしていく。そのため、互助組合がかかわる諸団体との連携状況を見える化します。
24. 地球温暖化や環境問題、そしてジェンダー問題などについて、SDH（健康の社会的決定要因）やSDGs（持続可能な開発目標）、HPH活動等を通して地域と幅広く連携した学習や改善運動に取り組みます。
25. ロシアによるウクライナ軍事侵攻に反対し、核兵器廃絶や原発ゼロ、沖縄辺野古新基地建設中止など平和な社会を求めて運動に取り組みます。
26. 夏の参議院選挙で、憲法9条や生存権の25条を守り、国民のための政治を取り戻すため、国民の投票率向上とあわせて奮闘します。

## V 多彩で楽しいとりくみ

27. 組合員の要求に見合った、サークルや企画づくりに取り組みます。
28. 支部対抗のグランドゴルフ大会の開催を目指します。
29. 2022年9月開催予定の「第15回全国共同組織交流会（山梨）」へ参加します。
30. 創立70周年（2023年）に向けた取り組みを企画します。

### 基本課題（目標）

|                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| ■仲間ふやし          | 850件                      |
| ■出資金            | 10,000件                   |
|                 | 増資1億円（純増5,000万円）          |
| ■いつでも元気         | 50部増                      |
| ■世話人づくり（お世話がかり） | 組合員50人に対して1人（配達協力者含め400人） |
| ■転居先不明除く組合員     | 20,000世帯へ回復               |

# 東神戸医療互助組合

# 2022年度総代会方針(案)

### スローガン

- 人と人とのつながりを大事にし、一人ぼっちの組合員をつくらない活動に取り組みましょう
- 創立70周年（2023年）の歴史と互助組合の存在価値に誇りと確信を持ち、強く大きな組織を建設しましょう
- 9条改憲阻止、憲法を生かし、いのちと健康をもっと大切にする社会をめざし取り組みを強めましょう

## はじめに

2021年度も「新型コロナウイルス感染症」は世界的パンデミックを繰り返しました。今年度のスローガンは「新型コロナに負けず、新たな工夫で安心して住み続けられるまちづくりの実践を」でした。2020年初頭からはじまった新型コロナ感染症は、兵庫県でも猛威を振るい、私たちの生活に大きな影響を与えました。

そんな状況の中、互助組合では理事や運営委員など世話人を中心に各支部で工夫を凝らした活動が繰り広げられました。特に、感染対策で屋内がだめなら屋外へ出ようと企画されたウォーキング企画等は好評で、自粛の長期化で精神的にも身体的にも辛い状況になっている多くの組合員に喜ばれました。

新型コロナ感染症の拡大は、そんな私たちの生活を大きく変え、格差と貧困をもたらしました。医療や介護を含め、社会保障制度の重要性が明らかにもなりま

した。にもかかわらず、自公政権は相変わらず「自己責任論」から脱せず、保健所の統廃合や医療機関の統廃合を未だに進めようとしています。10月の総選挙では、菅首相から岸田首相に顔を変え行われ、市民と野党の共闘が大きく進み兵庫1区では共闘候補が勝利しました。しかし、政治を変えるには至りませんでした。今後、2022年夏の参議院選挙に向けて自公政権に加え維新などの補完勢力は、改憲にむけた大きな動きをつくるものと思われます。私たちは人権を守り、平和を守るために改憲阻止の大きなうねりをつくりあげなければなりません。ロシアによるウクライナ軍事侵攻は決して許されるものではありません。「いのちが大切にされる社会」を実現させましょう。

最後に、第46期総代会の任務は、①2021年度のまとめと2022年度の方針決定。②決算・予算の確認です。以下、2021年度のまとめと2022年度の方針案を提案します。

## 第46期定期総代会のご案内

### とき

6月5日（日）

午前9時30分開場 10時00分開会  
（12時30分閉会予定）

### ばしょ

神戸市勤労会館7F  
大ホール

●JR・阪急・阪神の各「三宮」駅から東へ徒歩5分。

## 2021年度のまとめ

### 1. 基本課題の到達

#### ■加入

【年間到達】336件（目標/目標比 850件/40%）  
（前年/前年比 345件/97%）

◆昨年度もコロナ禍で諸活動の自粛が続く中、病院コミセンの閉鎖や地域班会や行事の自粛など厳しい展開となりましたが、各支部でコツコツした取り組み



で仲間増やしが実践され日常的に「加入申込書」を持参し加入につながった事例や、訪問行動・ウォーキングやスマホ教室などの行事を通して仲間増やしが行われました。さらに、診療所待合で加入コーナーを設置し成果をあげた経験もありました。

◆インフルエンザ予防接種助成による加入は、昨年度はワクチン入荷が不安定であったことも影響し25件でした。

#### ■出資金

【年間到達】 1億53万9千円  
（目標/目標比 1億円/100%）  
（前年/前年比 1億3145万7千円/76%）

◆昨年度も年間目標を達成。健康ニュース11月号に「緊急増資アピール」として振込用紙を折り込み、1/24現在で104件214万円もの振り込み増資があり、コメント欄には「たくさんは出来ませんが応援しています」「大変な時ですが体に気を付けて頑張ってください」など心温まるメッセージも寄せられました。また、振り込み用紙を持参して、班会や事業所受付などで「これ準備したので」と増資して頂く方も沢山おられました。

#### ■いつでも元気

【年間到達】購読総数403部（前年比6部増）

◆年度初めは400部を割り込んで（397部）のスタートでしたが、月間の中で意識的に購読者普及の声掛けが行われ最高で414部の到達となり、9支部で成果がありました。増誌数は年間で52部でしたが、年度末で減誌があり増減で6部となりました。事業所でも「あぁす」が見本誌400部を利用者に配布したり、病院でも未購読職員へ見本誌を配布する取り組みが行われました。職員購読率を50%に上げる取り組みは大きな課題として今後も取り組みます。

## 2. 居場所と世話人づくり

◆昨年度は訪問行動を大きな柱として掲げましたが、コロナ禍で直接対話する事へのためらい等もあり、実施回数を伸ばすことは出来ませんでした。しかし、健康ニュース配達と合わせた訪問や、「私が配っています」の挨拶文をポストに入れた行動を含めると9支部で訪問が行われました。

◆訪問した支部からは、元気な様子を伺えたり（葺合南）、困難を抱える生活実態が垣間見れた（兵庫）との報告がありました。特に、新しい加入者を訪問した支部では、新しい配達協力者につながった経験（うはら）もありました。

◆健康ニュースの配達協力者さがしが積極的に行われ、支部ニュースでの募集などで多くの支部で増やすことが出来ました。またマンション毎に配達協力

者を配置できた支部もあり、新たな担い手づくりが進展しました。

◆支部やエリアごとの「組合員マップ」の作成は一部の支部に留まりましたが、配達協力者を増やす取り組みは少しずつ広がりました。

◆「居場所」自体が自粛で使えない状況が続きましたが、再開されると喜びの声が聞かれ、「相談会」や「班会」などが再開していく中で、人が集う場所の重要性が再認識させられました。「喫茶」が再開されると感染対策に注意しながら創意工夫を凝らした取り組みが行われ、コーヒーの提供が再開可能となると参加者からは「久しぶりに皆と飲むコーヒーは格別！」との喜びの声も聞かれました。

◆東灘の支部を始め、支部内に居場所がない支部から「私たちの支部にも居場所が欲しい」との声が出始めました。今後、支部活動の活性化ふくめ検討していきます。

## 3. 健康づくり

◆フレイルチェックを実施するための学習会を保健委員会が主催で実施しました。各支部でもフレイル予防の学習会やチェックが行われました。

◆11月に保健委員会が行った「秋のウォーキング企画：七福神めぐり」は26人が参加。予約日には申し込みが殺到するほどで内容も好評でした。

◆「ヘルスアップチャレンジ」は今年も好評で、申し込み数は206件となりました。チャレンジ内容も充実したことが好評の要因であり取り組みを終えた感想なども集約していく予定です。

◆組合員健診のチラシを刷新し、お得感やお勧めを宣伝。乳がん検診受診のための加入などもありました。

◆班会も健康チェックなど出来ない状況が続きましたが、再開される中、組合員さん同士の再会に喜びの声が届きました。特に、ウォーク班など屋外での班会活動が人気となり近所を散策するなど旺盛に行われました。

◆恒例の大腸がんチェックにも取り組み498件普及し、241人（3/30現在）の検査を実施しました。

## 4. 組織づくりと職員との協力

◆支部活性化のための分割に向けた「支部リニューアルプロジェクト」が、うはら支部とほくら支部で始動。毎月の理事会後に会議が行われ、支部分割の資料作成や支部運営委員の交流も行われました。2023年の70周年にむけて取り組みが始まりました。

◆「組合員名簿プロジェクト」も継続して行われ、100歳以上の方の訪問や緊急連絡先聞き取り、組合員と顔の見える関係づくりの取り組みが実践されは

じめました。また名簿整理にむけ「組合員登録内容更新」用紙を全組合員に配布し多くの反応があり更新作業が始まりました。組合員の名簿整理は規約改正が必要な問題など課題もありますが、実組合員数がこれ以上減少しないような取り組みも実施してきました。

◆SNSを使用した情報発信は試行段階ですが公式LINEが作られ、活用のためのスマホ講座（葺合南、北神、六アイ）なども開始され人気を博しました。

◆医療懇談会は会場の関係などでたくさん人を集めての開催が困難な状況でしたが、月間後半には「フレイル予防」「コロナ」（うはら）「研修医を招いての懇談会」（住吉北）、「認知症予防」（芦屋）などが実施されました。

◆10月に教育学習委員会主催の「運営委員会学習会」では17人が参加し互助組合の歴史や役割を学びました。また、11月「第13回医局と互助組合の懇談会」を2年ぶりに実施。29人が参加し組合員と医局の先生方との交流を深めることが出来ました。

## 5. 社保平和、まちづくり運動

◆社保平和委員会を中心に、毎月の委員会前に駅頭署名行動を実施。生田支部では診療所前で定期的に署名行動を実施し「75歳以上2割化阻止」などに取り組みました。

◆芦屋支部では「保健所統廃合」に反対する署名行動を継続して実施。ついに、統廃合を凍結させる事が出来ました。引き続き、撤回に向けて運動を強めます。

◆北神・北支部では「三田市民病院と済生会病院」の統合再編反対に向け、地域団体と協力して署名やアンケート活動に取り組みました。

◆病院では診察での「医局アピール」とともに署名用紙を配布。多くの署名が集まりました。

◆「2022年新春学習会」では気候危機を学び、地球温暖化による影響や脱炭素の必要性を学びました。神鋼石炭火力発電所建設稼働の中止を求める運動や、NO<sub>2</sub>カプセル調査に取り組みました。

◆認知症予防ネットと協力した「コロナ禍における自粛」聞き取り調査第2弾にも取り組み互助組合だけで200件を超えるアンケートを集めました。前回と比べ更に歩行速度低下や物忘れ悪化など健康障害が広がっている事が明らかになりました。今後、感染予防と共に人との交流、社会参加が可能になるよう地域の中で連携することが課題です。

◆兵庫県知事選、神戸市長選、総選挙では、私たちの要求を掲げ、実現に向けて市民と野党の共闘で取り組みました。

◆神戸市長選後に市民に説明もなく打ち出された、

「王子公園再整備」や「神鉄シーパスワン部有料化」などに反対する市民と協力して、中止に向けた署名や運動に取り組みました。

## 6. 多彩で楽しい取り組み

◆昨年度は新型コロナの感染拡大を考慮して「健康まつり」が中止になりました。今回は70周年事業と合わせた計画として進めます。

◆屋外イベントが人気となり、「グラウンドゴルフ大会」（うはら）をはじめ、「王子動物園」、「神戸どうぶつ王国」（灘西）、「相楽園」（灘東）、「酒蔵ウォーキング」（御影・住吉北）、「ミステリーウォーキング」（芦屋）、「淡河町ぶらぶらウォーキング」（北神）、落語の「喜楽館」観劇（葺合南。灘東）などが実施され成功しました。

◆9月に「全日本共同組織交流集会プレ集会」がオンラインで実施され、全国のコロナ禍での経験や取り組みを学ぶことが出来ました。

# 2022年度方針

## I 居場所と世話人づくり

1. コロナ禍で孤立が広がる中で人と人とがつながれる活動を大切に“気軽に語り合い、支え合える”居場所や班会、行事づくりに取り組みます。
2. 支部での活動を拡げるため、運営委員体制の強化や配達協力者の過重負担の軽減につなげるため、新しい担い手（お世話がかり）づくりに取り組みます。
3. 新たなつながりや、子ども対象の無料塾や子ども食堂などの企画を通して若い親層へのアピールにも取り組みます。また農園作業やフードバンクなど、趣味ややりがいもてる新しい取り組みも検討します。
4. 加入申込書の裏面アンケート用紙の活用をすすめ、新規加入者が関心のある取り組み情報を参考に、可能な限り支部で訪問行動を行いお世話がかりにつなげる取り組みをすすめます。
5. 各支部で活動の拠点づくりと支部活動の発展をめざして、空き家などを活用した新たな居場所づくり計画を進めます。
6. 1支部1助け合い運動として、「居場所活動」や「ボランティア活動」をはじめ、支部での「相談会」や、あぁすとの連携、諸団体による「見守り」「お助け隊」などへの協力を含め、運動の継続と強化に取り組みます。また、組合員の要求にあわせて有償ボランティアの検討も行きコーディネーターの